

チャーチル会・大分 会報

2021年(令和3年)7月号

幹 事 長：成瀬 輝一

〒870-0936 大分市岩田町 1-1-1 Tel : 097-558-4344

e-mail : naruse@iwata.ed.jp

事 務 局：岩下 孝子

〒870-0872 大分市高崎 1-5-8 Tel & Fax : 097-546-7899

会報編集・発行：本田 久親

〒870-0875 大分市青葉台 2-5-20 Tel & Fax : 097-543-4013

e-mail : hondahi@oct-net.ne.jp

新型コロナウイルス感染者数の下げ止まりがなかなか見通せず、開催の是非の声の相半ばする中で、オリンピック、パラリンピックがいよいよ始まります。万全の感染防止対策が講じられるものと思いますが、コロナに打ち勝った東京大会として成功裡に終わることを祈っています。

7月の会報をお届けします。

● 6月度月例会報告

【室内写生会】、

6月度の月例室内を、6月1日(火)のPM 1時から、コトブキヤで実施しました。画材は今回も百花繚乱、季節の花々でした。PM 3時頃まで写生を続け、最後に全員の作品を並べて、高木先生に恒例の一口講評をしていただきました。

出席は、糸井、岩下、大野、佐藤つき、杉田、野田、橋本、吉村、本田の9人と高木先生の計10人でした。



【野外写生会】

6月20日(日)の野外は、一昨年まで会に在籍していたが現在休眠中の高橋さんが営んでいる鶏舎へ出掛けました。3台に分乗して、宗麟大橋を渡り、かつたクリニックの駐車場で高橋さんの出迎え



を受け合流して現地に到着。

広い3区画のそれぞれの鶏舎の中には、シャモ、チャボ、ウコッケイ、その他初めて目にする珍しいいろんな種類の鶏が数羽ずつ放し飼いされていました(写真:左、右上)。

ここで、伊藤若沖ばりの写生をしようとしたのですが、なにしろ相手様がじっとしてくれず、お手上げのため、鶏の写生をあきらめて、佐野植物園に場所を移すことにしました(写真:右下)。



佐野植物園で全員一緒に昼弁当をとった後、それぞれ、しばらくスケッチをしたり園内を散策したりして過ごし帰路につきました。

この日は30℃の猛暑でしたが、参加者は、糸井、岩下、大野、佐藤つき、中島、成瀬、野田、橋本、本田の9人でした。

● 7月度月例会の予定(当番:糸井、杉田)

【室内写生会】

7月6日(火)、13時～、コトブキヤでの室内写生を行います。多数ご参加ください。

【野外写生会】

7月18日(日)の野外写生は、厳しい暑さが予想されるため野外は取り止め、曾根崎産院トレーニングルームでの室内写生とすることにしました。参加される方は10時頃までにお集まりください。曾根崎さんにはまたお世話になります。

● 第122回絵画展の作品集について

第122回絵画展の作品集が出来上がっています。吉村さんが写真撮影をし、佐藤典昭さんに立派な作品集に編集していただきました。ご希望の方は事務局にお申し出ください。1部1,500円です。

● 次回（第123回）絵画展について

次回の絵画展は10月25日からの1週間を予定しています。春の絵画展を終えたばかりで、いささか気の早い話ですが、出品作品の登録の期限を8月末と考えていますので、お含みおき願います。次回、第123回絵画展は、第122回で中止せざるをえなかった客員の先生の講評も含めて、正常な形で実施ができるものと思っています。

【編集後記】

野外写生には厄介な梅雨時、ここ大分を含む北部九州の梅雨入りは異常に早い5月15日。ところが、関東甲信越では一カ月も遅れた6月14日、東北地方は更に5日遅れて19日で、“日本も意外と大きい！！”の感。日本列島は南北が長く、約3千kmと何となく理解していたが、この際、暇に飽かせて調べてみた。南北は最北端の宗谷岬から最南端の沖ノ鳥島まで2845kmだが、何と、東西は最東端の南鳥島から最西端の与那国島まで3142kmもあるという。認識を新たにさせられた。

国土の広さと言えば当然のことではあるが米国。これを、実際に身をもって体験させられたはるか昔の或る事が脳裏を過った。絵とは関係のないことではあるが、余白の埋め草にと思ひ臆気な記憶を辿ってみた。

50年ほど前の夏のこと。当時、米国の或る会社から技術導入をすることになり、米国に出張し、8月の末から9月末までの1カ月間余り滞在して、全米各地に点在するこの会社の工場や事業所などを観て回ったことがあった。ニューヨーク、シカゴ、ロサンゼルスなど各地を動き回ったが、これらの移動はいずれもいくつかの時間帯を跨いでのものであり、日本国内の出張では経験できない広大な米国ならではのものであった。

また一連の行程の中でロサンゼルス南のロングビーチの工場やジャクソンビル近郊のグリーンコーブスプリングスという田舎町にある工場での滞在中は40℃近くの灼熱の気温のさなかであったが、その後、グリーンコーブスプリングスの工場での滞在を終えデンバーの本社へ出向くため、マイアミ空港からデンバー空港に降り立つと、其処は吹雪の真ただ中。真夏のフロリダから真冬のコロラドへ。改めて米国国土のスケールの大きさを思い知らされたことを記憶している。

閑話休題、コロナ禍で、CC全国大会も昨年の69回京都大会、今年の70回東京大会と2年に亘って中止されたが、コロナの収束とチャールズ会活動が正常化できるようになることを祈って止まない。

CC大分 会報編集事務局 本田久親